

えがお

伊那西小学校

「バードケーキ作り」



戸谷先生には、美しい写真と様々な資料を使って、質問に答えていただきました。

伊那西小学校では、年間を通じて、校舎のすぐ横に広がる学校林での学習をしています。この日は、林間に來てくれる小鳥たちの冬越しをお手伝いするために「バードケーキ」をつくって、学校林の木にかけました。

ケーキ作りの前に、児童の皆さんから出された野鳥についての質問に、戸谷省吾先生が答えてくださいました。伊那西小学校で見られる野鳥は20種類以上いること、鳥の視力は人間の8倍もあること、シジュウカラは一日に230匹もの虫を食べていることなど、鳥について興味がわいてくる様々なお話を聞くことができました。

この後、縦割り班に分かれて、バードケーキ作りが始まりました。

①材料が入ったビニール袋を、手の温かさでラードを溶かしながら、材料が固まるまでしっかりとこねます。

②ビニール袋の中に、ひまわりの種（3年生が育てた



① 砂糖、小麦粉、ラード、砂糖、小麦粉、ラード、砂糖をビニール袋の中に入れてよくこねます。

② ひまわりの種、木の実に乾燥した虫などをに入れてさらにこねます。

パソコンや携帯で「伊那市えがお」と検索するか、下のQRコードから入ると、令和4年度分からカラーでご覧いただけます。



令和6年度
No. 7
1月28日



③ 松ぼっくりのすき間に、つめこんでいきます。



④ ひもをつけて、かんせい！

もの、草や木の実に、ピーナツや松の実を細かく刻んだものを、虫を乾燥させたものを入れて、さらにこねます。③こねたものを、松ぼっくりのすき間に詰めこんで、④ひもをつけたら完成です。児童の皆さんは、縦割り班で協力しながら、楽しく作っていました。その後、みんなで完成したバードケーキを持って、学校林へいきました。有賀校長先生と北村先生が梯子に登って、児童から手渡されたバードケーキを高い枝に1つ1つしぼりつけてくれました。

雪が降り、地面から餌が取れなくなると、野鳥たちが集まってきてバードケーキを食べるようですが、児童の皆さんはその様子を直接観察したり、センサーカメラで録画した画像で、野鳥の様子と共に、タヌキやキツネなど、森の動物の観察もしたりするのですね。

伊那西小学校の皆さんは、林間を活用した教育活動によって、ここでしかできない豊かな経験と学びをしています。



梯子に登り、バードケーキを木にしぼりつけていく、有賀校長先生(右)と北村先生(左)

西春近公民館人権同和教育講演会 「教員生活で学んだこと」



西春近公民館の人権同和教育講演会で、浦野博館長から「教員生活で学んだこと」と題して、教員時代の体験談をお聞きしました。



初任校の中学校は、県下でも有数の大規模校であり生徒指導困難校で、授業放棄・校舎徘徊・器物破損等々ありとあらゆる問題行動が日常的に起こり、その対応に大変苦労したそうです。後追いばかりだったご自身の指導を、平成20年にヒットしたテレビドラマ「ルーキーズ」になぞらえて、野球部監督川藤幸一教諭のように「夢にときめけ！明日にきらめけ！」と子どもたちを希望に導く指導ができなかったと振り返りました。

2校目は地元に戻り、駒ヶ根市立東中学校に勤務。初任校とは真逆とも言える落ち着いた学校でした。それはそれでまた慣れるまでに苦労したのですが、やはり日常のきめ細やかな生徒指導と生徒の期待に応える学習指導の大切さを痛感したそうです。そして中学校での指導の醍醐味として、生徒たちが様々な問題や事件を乗り越えて大きく成長し、次第に担任の指導の手を離れ自立していく姿をあげていました。

3校目で小学校への勤務となりました。全教科の学習指導準備に全精力を傾けて疲労困憊する中で、次第に力の掛けようも身につけていったそうです。中学校では研究授業をすると「1年生は発言してくれていいわよね」という言葉が聞こえたものでしたが、小学校になっても「低学年は元気に手を上げてくれるからいいわよね」となって、学習指導に向かう教師の姿勢に少なからぬ矛盾を感じたということでした。

感じたということでした。

小学校3校目は総合的な学習で全国に名をはせる伊那小学校勤務となりました。通知表もチャイムもなく、総合学習・総合活動を中核とした伊那小学校での勤務をとっても楽しそうに話されました。担任した2年生の子どもたちと野菜作りの総合が始まり「自身も農業に従事する浦野先生が活動をリードしよう」と子どもたちが言うことを聞きません。「作る野菜の種類は僕たちが決める」「マルチは去年もやった」と何でも自分たちでやろうとします。担任が苗を買ってくるのと伝えると、「苗は農協でもグリーンファームで売っている。自分たちで買いに行く」と伊那小学校の子どもらしさを存分に発揮します。かくしてグリーンファームで買った各段ボールに一抱えもある苗を、へとへとになりながら学校まで持ち帰ったのでした。

2年生の子どもたちが1年時に総合学習を中核とした日常を過ごす中で、「学習は自分たちで作っているのだ」という学びの根幹がしっかりと育っていたのです。「はじめに子どももありき」という伊那小の教育理念が具現された姿に圧倒されて、ご自身の子ども観・教育観が覆されたということでした。お話の中で伊那小で語り継がれる大槻武治先生の詩が紹介されました。

最後に管理職時代の苦労やエピソードを添えら

未完の姿で完結している 大槻 武治

ああでなければならぬ
こうでなければならぬ
いろいろな思いをめぐらしながら子どもを見るとき
子どもはじつに不完全なものであり
いろいろなとらわれを棄て

柔らかな心で子どもをよく見るとき
そのしぐさのひとつひとつがじつにおもしろく
はじける生命のあかしとして目に映ってくる
「生きたい、生きたい」と言い
「伸びたい、伸びたい」と全身で言いながら
子どもは今そこに未完の姿で完結している

れ、教員不足や働き方改革といった喫緊の課題にも触れながら、それでも教員を支えるのは、子どもたちの成長と共にあり、共に成長するやりがいではないかと締めくくられました。

楽しくお話を聞きながら、子どもたちのすばらしさや先生方のご苦勞を思い、あっという間に過ぎた90分の講演会でした。

中学生の自習室2025冬



1月6日・7日に、伊那、美篈、西箕輪、西春近、高遠(7日のみ)の各公民館では、「中学生の自習室」が開かれ、全体で80名の生徒の皆さんが参加しました。

3年生が3学期に入るとすぐに大切なテストを控えているということもあり、緊張した空気の中、1・2年生も共に集中して学ぶ姿が見られました。また、中学生の自習室に参加することで、規則正しい生活リズムを取り戻すこともできたと思います。

2日間とも、伊那市食生活改善推進協議会の会員の方が手作りの昼食を用意して下さり、勉強を頑張った後に、みんなで美味しくいただきました。

【参加した生徒さんの感想】

- ・家にいるとタラタラとしてしまい勉強ができない時間帯でしたが、自習室に行くとは倍も集中できました。
- ・みんなが勉強しているから、50分集中して進めることができました。軽食が美味しかったです。
- ・先生方も丁寧に教えて下さり、軽食も量があり昼食代わりになりました。
- ・みんなで勉強することで私も頑張ろうと思うことができて良かった。次回も参加したいです。
- ・集中して取り組めて、友達と教えあって進められました。



(上)みんな集中して学習に取り組んでいました。(下)1日目のお昼はクリームシチュー、ロールパンサンド、みかんでした。



伊那市人権同和教育講座講演会

「子どもが安心して暮らせる社会の実現をめざして」

NP法人 子ども・人権
エンパワメント CAPながの



保育協会・子ども会育成会との共催による伊那市人権同和教育講座講演会がニザワいなっせホールで開催されました。

「CAP」とは、Child(子ども)、Assault(暴力)、Prevention(防止)の頭文字から名づけられ、「CAPながの」は、長野市に拠点を置き、子どもへの暴力のない社会の実現のために、子どもが暴力から自分を守るための人権プログラムを長野県全域に届けています。CAPでは、「〜してはいけません。」という禁止教育ではなく、子どもが本来持つ力を信じ、「こういう方法もあるよ。ああいう方法もあるよ。」と様々な行動の選択肢を伝え、子ども自身が選択していくアプローチをしています。

講演では、まず、暴力の種類や虐待の分類、それを受けた子どもたちが、つらい気持ちを誰にも話せずに我慢していくと、やがて他人や自分への暴力に向かっていくようになること、万引き等の問題行動の背景にあるその子の育ってきた環境に目を向けること等、CAPながのの皆さんがこれまで出会った子どもたちの様子をあげながら、お話されました。

次に、保育園でおこなっているワークショップの紹介がありました。誰でも「安心」して「自信」を持つ「自由」に生きていく権利を持っていること、暴力から身を守るために「嫌だ(NO)」と言えたり、「逃げる(GO)」ことができたり、誰かに「相談(TELL)」したりできることを、劇を通して、子どもたちに伝えていくそうです。

CAPでは、「エンパワメント」という「子どもが本来持っている力を信じ、肯定し、その力が十分

発揮できるように、働きかけること」を念頭に置いて、言葉がけ・配慮・支援と共に、特に子どもの話を「聴く」という働きかけを大切に考えているそうです。そして、どのような話の聴き方が良いのか、劇を通して示していただきました。

最後に、「子どもは傷つきやすいだけではなく、驚くほどの回復力を持っていることを忘れないでください。子どもたちには、こんなに力があるんだなどいうことを何度も何度も私たちが経験してきました。ぜひ、子どもを信じて、そして、皆さんもご自分の力を信じてほしいと思います。」と講演を締めくくられました。



劇を通して学ぶ



近くの人との話し合いから学ぶ



講演を聞いて学ぶ

この講演会で、不適切な環境やいじめなどで傷ついている子どもたちに対して、周りの大人は何ができるのか一緒に考えながら、改めて子どもへの接し方を見直したり、言葉がけや話の聴き方などを具体的に学んだりすることができました。

【参加者の感想から】

- ・園で子どもたちと関わる時の言葉のかけ方、傾聴の仕方など、具体的に劇で見せていただき、とても分かりやすかったです。
- ・聴くことが大切と分かっていても、「嫌って言えればいい。」「OOすれば」と途中でアドバイス(押しつけ)してしまっていると反省しました。
- ・子どもも大人も、自分の気持ちを聴いてくれること、受け入れてくれることが安心につながると思いました。
- ・自分の子育てを振り返って、やり直したいことがたくさんありました。

まほらいな市民大学講座



「昔の遊び(園児とともに)」

市民大学で、「こまのたけちゃん、武田勉さん」を講師にお迎えして、竜東保育園の年長さんと一緒に、昔の遊びを楽しむ講座が開かれました。たけちゃん、全日本こま技選手権で4連覇に輝き、全国の公演やテレビ出演、指導者としても活躍中です。

前半は、たけちゃんのこま回しやけん玉の名人芸と楽しい話芸で、会場が驚きの声と大爆笑に包まれ、後半は市民大学の学生さんと園児の皆さんが、たけちゃんに教わりながら、こま回し、けん玉、皿回し、南京玉すだれ等、夢中になって体験しました。

学生の皆さんは、童心に返って昔の遊びを楽しみ、園児さんからたくさん元気をもらった講座になりました。

【学生さんの感想】

- ・たけちゃんの技が見事でした。また、園児とのやりとりがとても楽しく、笑いながら元気が出ました。
- ・簡単そうに見えた遊びもやってみると難しかったです。子どもに返って夢中になりました。
- ・世界中にこまの遊び方があるのに驚いた。幼い頃を思い出して楽しかったです。
- ・孫世代の園児の皆さんと昔なつかしいこま回しなどを何十年ぶりに楽しむことができました。こまのたけちゃん(武田先生)竜東保育園の先生方園児の皆さん、ありがとうございました。



扇子にこまを乗せる神技に大拍手!



たけちゃんが回したお皿を、園児さん、保育士さんへと、渡していきました。2回目のチャレンジで成功!



学生さんと園児さんとで、こま回しを楽しみました。



帰りにアーチをつくらせて園児さんを見送りました。